令和元年11月　市長定例記者会見

2019年11月１日(金)

午後１時30分　開始

【秘書広報課長補佐】　それでは、定刻となりましたので、ただいまから11月の市長定例記者会見を始めます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表についてからお願いしたいと思います。事業発表に係る質疑応答が終了いたしましたら、次第の３番目、フリーの質疑応答へと進行いたします。

ご質問の際は、お手数でございますがご自席のマイクをご使用いただきますようよろしくお願いいたします。

終了は14時30分を予定しておりますので、ご協力のほどお願い申し上げます。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】　では、11月の定例記者会見、どうぞよろしくお願いいたします。

最初に、東日本を中心に台風、また長雨が起こりまして、台風15号、19号、21号によりまして深刻な被害が発生しております。亡くなられた皆様には心からご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆様方には一日も早い復興をお祈り申し上げます。

また、敦賀市としましては、19号の災害義援金の受け付けを開始しておりますし、また、茨城県の水戸市、常陸太田市に対しましては、ふるさと納税の災害支援代理寄附の受け付けも開始しているところでございます。

また、アメリカのほうに10月14日から20日まで行かせていただきました。ロサンゼルス、シカゴ、ニューヨークと、ユダヤコミュニティの方々とお会いして、敦賀の人道の港のことを発信してまいりました。その中で、新ムゼウムの来年秋のオープニングのときには私たちも行きたいというようなことをそれぞれ言っていただきましたので、非常にＰＲの効果、有意義な訪米だったというふうに考えております。

また、昨日発表させていただきましたが、ポーランドの東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンとしての登録をしていただいたということで、今後細かいことにつきましては、また打ち合わせしていくものだと思いますけれども、登録していただきましたので、よかったと思っております。

そしてまた、今月、11月の行事が結構目白押しでございまして、３日の日からはミライエが始まりまして12月25日までオープンしていただきますし、また、人道の港敦賀のシンポジウムを11月９日に開催いたしますし、９日、10日という日程では国際文化交流フェスティバルもしていただけるということになっております。

11月13日から15日の間で花のまちづくりの花苗の配布もさせていただきますし、11月22日には北陸新幹線敦賀開業に向けたまちづくりの勉強会の開催もさせていただくところであります。

それから、11月23日は命のメッセージ展in敦賀2019を開催していただきまして、次の日には拉致特定失踪者問題の早期解決を願う福井県集会も開催されるというふうに聞いております。

たくさんの行事が目白押しでありますが、開港120周年も含めて精いっぱいやっていきた

いと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。
　以上です。
【秘書広報課長補佐】　続きまして、事業発表をお願いいたします。
【市長】　事業発表につきましては４つございます。
　１つ目がポーランド孤児の関連資料の寄附ということでございます。
　今月、11月８日にポーランド孤児研究者の松本照男さん及びヴィエスワフ・タイス教授が敦賀のほうにポーランドから来られまして、1920年代に敦賀に上陸したポーランド孤児の史実に関する貴重な資料を敦賀市に寄贈いただくことになりました。寄贈いただくのは、お２人がこれまでに収集された資料を初め、現地でポーランド孤児ご本人からご提供いただいたものもあります。詳細につきましては、お手元に配付しているというふうに思っております。
　また、このお２人につきましては、次の日の９日の人道の港シンポジウムで貴重なご講演もいただきますので、ぜひお楽しみにしていただきたいと思っております。ポーランドで一番ポーランド孤児について研究している第一人者が２人来られるというふうに理解しております。
　それから２つ目でございますが、11月16日のダイヤモンド・プリンセス号の敦賀寄港と、それにあわせました観光物産inみなと敦賀2019の開催ということでございます。
　大型外国クルーズ客船ダイヤモンド・プリンセス号が敦賀港へ11月16日土曜日に寄港いたします。また、タイヤモンド・プリンセス号の寄港にあわせた敦賀港に関連します観光資源を広くＰＲするため、観光物産inみなと敦賀2019を開催いたします。乗船客を初め多くの方々に敦賀市の魅力を感じ取っていただくためのおもてなしの体制を整えるとともに、敦賀港のにぎわい創出と市内経済の活性化につなげるように万全の体制で準備を整えているところでございます。
　そのほかの事業としまして、11月16日には、けひさんアートマルシェ、また同じ16日ですけれども、ツルガ　アルクエストということも開催していただきますので、あわせてにぎわいの創出につながっていくというふうに思っております。
　また、以前から懸案でありました神楽にバスをとめて気比神宮の中に誘導するというバスが大阪から１台、名古屋から２台、来ていただけるというふうに聞いておりますので、アクアトムのキッズパークの前ぐらいに停めていただいて、神楽通りを歩いていただくという段取りになっております。
　それから３つ目の事業ですけれども、国土交通省鉄道局長、水島智様による北陸新幹線敦賀開業に向けての講演会の開催があります。11月10日の日曜日午前10時30分からニューサンピア敦賀２階の気比の間におきまして、国土交通省鉄道局、水島智様によります講演会「北陸新幹線と観光地域づくり」――これは仮題ですけれども――を開催いたします。
　北陸新幹線敦賀開業が３年半と迫る中、商工会議所を初めとした各種関係団体との連携強化とさらなる機運醸成を図りたいと思っております。
　この水島局長さんは、観光庁にもいらっしゃった方で、そういう観光面でも視野がある方ですので、非常に楽しみな講演になることを期待しております。
　最後に４つ目ですけれども、令和元年度の除雪排雪計画についてであります。
　11月15日から来年の３月31日を除雪期間として、降雪時におけます交通を確保し、市民

生活の安定を図るため、敦賀市除雪排雪計画に基づき実施させていただきます。除雪作業は、敦賀市土木協会、敦賀市管工事組合、造園組合、その他協力事業者に委託し実施させていただきます。また、今年度も敦賀市除雪機械購入費補助金の制度を活用しまして、除雪委託業者が除雪機械を10台購入しました。その除雪機械を含め、効率的、効果的に除雪を実施してまいります。

排雪場所は、和久野橋下流、黒河川左岸及び敦賀市総合運動公園西側駐車場の２カ所を指定しておりますが、また大きな雪が降ったときには昭和町１丁目の笙の川左岸及び松原運動場もあわせて指定する段取りとなっております。

発表項目は以上でございます。

【秘書広報課長補佐】　それでは、ただいま発表いたしました項目についてご質問をお受けしたいと存じます。本日は幹事社さんが出席されておりませんので、各社お伺いをさせていただきたいと思います。

まず、発表項目につきましてご質問がありましたら挙手をよろしくお願いいたします。

【記者】　まず、ポーランド孤児の資料の寄贈の件でお伺いしたいんですけれども、お２人から寄贈を受けるということなんですけれども、資料にある５項目、それぞれ誰からいただくものか。あと、現地で収集したものか本人からいただいたものか。内訳を教えていただけますか。

【市長】　担当のほうがわかれば答えます。

【人道の港発信室長】　まず、どなたから寄贈いただけるものかということでございますが、こちらに記載させていただいております松本照男様、それからヴィエスワフ・タイス様、お２人で共同研究を行ってきたということでございまして、我々としては、お２人からこの資料一式を受け取らせていただくということを考えております。

それから、こちらで主なものとして書かせていただいた資料については、基本的にはこのお２人が現地で収集したもの。それから、物によっては孤児ご本人の日記であるとか、そういったものを直接受け取られたものも含まれておりますが、実はここ、あくまでも主なものということで記載させていただいておりますとおり、まだほかにも多数ございまして、今その資料の内容、数なども含めて最終的に確認をとっている最中でございます。

以上です。

【記者】　大体何点ぐらいあるのか。

【人道の港発信室長】　現時点で先方からいただいている情報で、最終の数字ではないんですが、大体種類としては全部で15種類程度、それから写真の枚数が非常に多いということで150枚程度あるということで、そういったものも１点ずつと数えると200点近く、195点ぐらいになるのかなということで現在の数字を把握しております。

以上です。

【記者】　特に２番と３番、雑誌と日記、どのような内容が書かれているかというのはわかりますか。

【人道の港発信室長】　済みません。内容については現物をまだ確認できてないところもありまして、十分なことはお答えできないことがございます。それから日記についても、中身が当然、外国語で書かれておりますので、その辺も寄附を受けてからその中身をきちんと研究していくということを考えております。

以上です。
【記者】　寄贈品のうち１の複製品は今のムゼウムの２階で展示するということなんですが、これらは新しいムゼウムで今後展示されるということでよろしいんですか。
【市長】　そうですね。資料をずっと、そのまま展示してもちょっと読み切れないと思いますので、その辺、解析できたら順次展示することになると思います。今おっしゃった日記については、私らも、いつごろ書いたものなのか、どのくらいのボリュームなのか、ちょっとつかみ切れておりませんので、お楽しみということで。
【記者】　ありがとうございます。
【記者】　関連で、２から５の資料は今後展示とかそういうのは考えていらっしゃるんですか。
【市長】　展示する予定なんですけれども、現地のポーランド語で書いてありますので、私らちょっと解説がつけないとできませんので、順次展示していくことになると思います。
【記者】　ムゼウムのほうですか。
【市長】　新ムゼウムのほうです。
【記者】　ありがとうございます。
【記者】　今のに関連してなんですが、このお２人が寄贈した経緯というのは何かあるのでしょうか。どういったところにあるんですか。
【市長】　私がわかっている範囲でいいますと、お２人ずっと研究してきて、ご高齢になられてきたので、どこかきちんとしたところに預けて展示して広めていただきたいという趣旨だというふうに理解しています。
追加があれば言ってください。
【人道の港発信室長】　では補足をさせていただきます。
まずもって、こちらの人道の港敦賀ムゼウムを運営する立場といたしまして、既存の施設でユダヤ関連の資料がいろいろと追加になったりということもあった中、なかなかポーランド孤児に関する資料が余り充実していないというところを我々担当レベルで痛感しておったところもございまして、このポーランド孤児に関して非常に資料をたくさんお持ちで、かつ長く研究をされている方がどういった方なのかということを調べさせていただいて、３年前に現地を訪問していろいろとお話をお伺いさせていただきました。
あわせて、こういった資料の提供等について可能性をお尋ねしたところ、一度検討してみるということで、その後のやりとりを経て今回寄贈いただけるということになったというふうに捉えております。
以上です。
【記者】　これらは希少性といいますか、いずれもビラとか極東の叫び等は、国内では多分初めての展示になる、初めての寄贈になっていくものなのでしょうか。おわかりになれば。
【人道の港発信室長】　ビラにつきましては、我々が把握している範囲で国内にはほかにはないということで先方からもお聞きしております。先ほど申し上げたとおり、資料は多数あるんですが、その中には既に国内である程度認知されているものといいますか、例えば日赤さんのお持ちの資料のコピーなども含まれますので、そういったものは今回初めて日本に来るというようなものではないと。そういうものも含めて寄贈いただくということ

でございます。
　以上です。
【記者】　細かい話でごめんなさい。続きなんですが。
　いただいた資料をこちらで解析してというお話だったのですが、相手の方は今のご説明だと研究の第一人者の方なわけですね。多分ジャーナリスト　として研究されている方と、恐らく大学の先生なので学術的な話なのかなと思って想像していますが。そうすると、こちら側として資料の再検討とか、翻訳とかというのはともかく公開前提だと思いますけれども、この資料自体をどういう価値があるのかみたいなことは、誰がどういうふうに検証して位置づけていくことになるのですか。
【市長】　その辺は、向こうの研究されている資料ですので、私らでは評価がなかなかできないと思います。できるのは、翻訳して、わかりやすく説明を加えるということができることだと思います。
【記者】　展示用に、展示するということのフォローみたいなものを加えていって公開するという、そういう理解でいいですか。
【市長】　そうです。
【記者】　なるほど、わかりました。
【記者】　ちなみに、８日の寄贈のときは、この資料は全部持ってこられる感じですか。代表的なのを持ってくるんですか。
【人道の港発信室長】　先ほどお伝えしたとおり、資料はかなり膨大なものですので、幾つか代表的なものは、もちろん持ち込んでいただいて、プレスの皆さんにも見ていただけるようにということで、お願いしております。
【記者】　ちょっとお話を伺っていると、この８日の寄贈の時点で、代表的なものに関しても、中身に関しての仔細はもしかしたら余りまだ詳しくはわからないという状況なんですかね。それともご本人さんがいらっしゃるので、ご本人に直接お話をお伺いしてという取材の形になるのでしょうか。
【市長】　松本照男さんは日本人ですので、資料の価値とかそういうところは多分ここで熱弁されると思います。ぜひ本人さんたちに聞いてやってください。
【記者】　別件で、除排雪計画のことで、過去何年かのわかる範囲でいいんですけれども、これまで出動回数は年度ごとどれぐらいになりましたか。多分去年とか少なかったと思うので。
【建設部長】　参考ですけれども、30年度の除雪作業は５日間です。さらに29年度、参考までに。この年は大変たくさん降った年でございまして、除雪作業としては43日間作業をしているというところでございます。
【記者】　関連で、除雪排雪計画で数字が変わったところはございますか。
【建設部長】　変わった数字ですが、細かいところまで申し上げますと、例えば除雪路線の延長、これが昨年度は384.6です。0.5キロ増えています。歩道が昨年度は42.2で0.6キロ増えております。そしてまた、３番目の委託の会社の数なんですけれども、これについては昨年度に比べてトータルで３社減っております。そしてまた、除雪車の台数ですが、総合計で175台と書いてございます。昨年度より２台増えているというところでございます。
【記者】　ダイヤモンド・プリンセスが来るという話が、16日に来る。市長、ずっとダイ

ヤモンド・プリンセスが来るというお話をされるときには、新幹線の開業というのを見据えて、練習というと変ですけれども、そういうものを見据えた形で、どういうふうに市民の方も含めて来ていただく方をもてなしていくのかみたいなことを踏まえてやるんですということをおっしゃっていたと思うんですけれども、必ずしも段階的に進むというものではないですが、今回でいうと、新幹線の開業というのはゴールではないですけれども、それを目標としたときに、何かバージョンアップといいますか、バスのことはさっきおっしゃっていました。バスのこと、ちょっとわからなかったんですけれども、大阪とかから来るというのは、タイミングがたまたま合ったからということなんですか。

【市長】　バスが来るのは、けひさんアートマルシェをやっているタイミングでやろうということです。けひさんアートマルシェは、ダイヤモンド・プリンセスが来たときにやってほしいと。ですから、バスが来て、敦賀市内を歩いていただくときに、何もなかったやろうということになりますと次がないので、来たからには、よかったねと言っていただきたいという仕掛けです。

【記者】　わかりました。ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】　ほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

　それでは、次第の３番目、フリーの質疑応答へと進行したいと思います。ご質問がありましたら挙手をよろしくお願いいたします。

【記者】　昨日、関西電力の金品の受領の関係で、高浜町長さんのところへ、ほかの自治体ですが、ご挨拶に行かれて、そこで町長さんが立地と電力会社の関係というものについて、フェア、公平なシステムというのを改めてつくることが必要なんじゃないかというお話がありました。そういうことだろうなというふうに取材させてもらって思いましたけれども、これからの立地との関係ですね。関西電力の該当の案件については、第三者委員会で事実解明というのをするというふうになっていますけれども、もうちょっと視野を広げて、立地と電力会社の関係というのを多分これから考えていかないといけないというふうになっていくと思うんですけれども、そのあたりはどういうふうにお考えなのか、お聞かせください。

【市長】　関西電力で起こったことに対しては、非常に遺憾だと思っています。そういうことはあってはいけないことですし、最初はそんな大きなことになると思ってなかったんでしょうけれども、30年という長い間に積み上げられていった、逸脱していったんだと思いますけれども。

　ほかの電力会社の調査によりますと、ほかでは発生していないということですので、そういうことは起きてないんだというふうに思っております。

　原子力をつくりましょうとか、やっていきましょうという前向きのときには、そういう地元対策というのは大きく関与してくるんでしょうけれども、今は再稼働とか廃炉とかそういうことになっていますので、そこで地元が同意しないとどうしても前に進まないという状況は余りないんじゃないかなというふうに思っていますので、今までのそういう関係を断ち切るということは、ないところはそういうことが発生しないということが期待できるのではないかと思います。ですから、余りないんじゃないかなというふうに思いますけれども。

【記者】　わかりました。ありがとうございます。

【記者】　きのう、新本部長ですか、事業本部３人来たと思うんですけれども、どういったことを話されて、どういったことを要請されたのか、もしあれば。
【市長】　私から申し上げましたのは、今回の不祥事に対しては非常に遺憾なことなので、国民の皆さんに対する信頼回復、きちんとやってほしい、全力で取り組んでほしいということと、それとは別に原子力の必要性ということは変わらずにあるわけなので、全原協の全体会でも申し上げましたように、その必要性ということはきっちり押さえていきたいと。
　その上で、信頼回復が一番大事なことですので、信頼回復をしていく上で安全に。ですから士気が下がっていたりするでしょうから、事故が起きたり何かトラブルがあったらさらなる不信感につながっていきますので、そういうことはないようにということを申し上げました。
　あとは、うちがもんじゅが廃止になったときの思いというのがわかっているかみたいなことを言いましたけれども。
【記者】　先日、中池見湿地の協議会がありまして、条例の関係、原案ということで現課の方が示されて議論をして、僕らも聞きました。今のところ、市としての方針としては、12月に上程していくという方針で変わりがないのかということと、改めてになりますけれども、条例案の狙いですね。どういうところを目的に、それを上程されるとすると考えていらっしゃるのかというところをお聞かせください。
【市長】　条例案につきましては、委員会で議論して、概ね認めていただいたというふうに伺っていますので、その方向で行こうと思っています。
　基金を食い潰してずっと来ていますので、どこでそれをクリアにしていくかというのは非常にこれからの課題なんですけれども、以前に計画をつくって、これでやっていきましょうという実施計画をつくりましたので、その役割分担をきちんとやっていく上でも、条例をしっかりつくって、物を売るんだったら物を売るで、その根拠ですね。今はとりあえずいいやろうみたいなふうにやっていますので、そういう根拠をきちんとつくりたいということで、条例案は必要だと思っています。
　ただ一つ、何人かの方とお話しして、私のほうで弱ったなと思っていますのは、ある方は、たくさんの方が来ていただいて、ラムサール条約の中池見を知ってほしい。またある人は、いやいや、たくさん来てもらうと自然が壊れてしまうので嫌なんだ、困るんですと。そうすると、例えば敦賀市が中池見のポスターをつくって出しましたというと、よかったという人と、だめだという人が分かれてくるんですね。ですから、その辺のコンセンサスを今後どうやってとっていったらいいのかというのが非常に難しいなというふうに思っています。
【記者】　今コンセンサスとおっしゃって、多分、自然観の問題なので、どういうふうに、どこまで行っても多分これで合意ですみたいなものは難しいと思うんです。そうすると、コンセンサスを得ていく場というか、やり方というのは、どういうふうにしていくというふうに今のところお考えなのでしょうか。
【市長】　今の２つのどちらの立場でも、今の条例案は必要だというふうに思っているんですけれども、その後どういうふうにじゃ条例案をつくった後で運用していくかというときに、来てもらったら困ると言われれば制限するしかないんですよね。そうすると物販ということは考えにくくなるんです。どういうふうにみんなが気持ちをまとめていくかとい

うことで、その後の展開は変わってくる。ですからそこが今まとめてほしいなという、皆さんでまとまって、お互いの折衷、納得できるところを見つけてほしいというふうに期待しているところです。

【記者】　関連して、市長のお言葉だと、期待しているとか、まとめてほしいとか、第三者的なおっしゃり方をされていると思うんですが、協議会の中でも、また条例案をつくったときでも、市としてどういうふうな立場でコンセンサスというものに臨むのか。観光と自然保護の両立というものをどう考えていらっしゃるのか、お聞かせいただけますか。

【市長】　中池見湿地は、敦賀市がラムサール条約に登録してというのはありますけれども、もともと１坪地主運動とか起きて、開発はやめてほしいということで、あそこの自然を残したいということで進めているんですね。ですから、私どもがこっちに向いて走るぞといっても、そこに違うという人がたくさん出てきますので、その方向性を私が出すものではないというふうに思っています。ですから今、ＮＰＯの方たちとか、中池見ねっとの方たちとか、いろんな方がいらっしゃいます。地元の方もいらっしゃいますので、その中で、こうしていこうということを決めていかないとだめだろうなと思っています。ですから今みたいな言葉になるんですけれども。

【記者】　市長ご自身がというわけではなくて、市としてどういう立場で臨まれるのか。

【市長】　皆さんで決めていただいた方向で応援していく形をしたいと思っています。

【記者】　応援ですか。市として何か主体的に取り組むというわけではなく。

【市長】　広く募集していきたいと言えば、することは決まってくるんですね。そのときにはやっていきますし、じゃ制限してこうしましょうかとなれば、それにあわせて市が動くことになると思いますけれども。

【副市長】　ちょっと補足的に。

今、協議会を通して保全計画というものをつくっています。その中で、当然その中に市も関わっていますので、市の役割分担とか、あと民間の方、一般の方の役割分担というのを決めて、これで継続的な保全をしていこうというところは合意形成ができているというふうに我々は捉えていまして、その中で市の役割の中で、今回条例も制定しますけれども、その施設の管理といった部分の中でエリアを決めて、そこについては市の役割分担としてやっていくといったことで、今回、合意形成とれた中で進めたいというふうに考えています。

【記者】　市の役割って何ですか。

【副市長】　いろんな分野の中で多岐にわたっているんですけれども、一つとして申し上げたのは、うちが公共施設として持っているものについて、その施設の管理を行っていくというのが一つの役割だと。

【市長】　計画の中の役割と私が言っているのとは、ちょっと違うお話なんです。

【記者】　10月17、18に国際シンポジウムがございましたけれども、試験研究炉に関して、学識者に関していろいろご意見があったかと思うんですけれども、改めて、それを踏まえて市長の今後期待されところについて、また、もんじゅ後の試験研究炉について、お聞かせください。

【副市長】　実際には、シンポジウム、私は挨拶はしましたけれども最後まではいなかったものですから。ただ、どちらにいたしましても試験研究炉に係る地域振興とかいろいろ

と話し合われたと聞いておりますので、そういったことを参考に、我々は文科省等に対しまして、できるだけ地域の活性化に結びつく、あるいは地域経済の発展、さらには人材、人の交流が進むようなものにしていっていただきたいということについては、これまでも要望していますし、今後も要望していきたいというふうに考えております。

【記者】　渡米というか訪米されて、いろいろな方と会ってこられたということですが、手応えというか、前向きな何かあったりしましたら教えてください。

【市長】　最初はロサンゼルスに行きました。総領事にお迎えしていただいて、カリフォルニア州の下院議員さんとかにもお会いしたり、ＡＪＣというユダヤ系の協会の偉い方たちともお話ししてきたんですけれども、ビバリーヒルズの市長さんも総領事館に来られていてしゃべったんですが、８月23日をビバリーヒルズ市では杉原千畝氏の記念日とするということが議会で決まりましたということでした。そのときに、原子力特別委員会がちょうど渡米していて、その中で高木先生がいらっしゃって、敦賀の出身ですという紹介をしたら、皆さん会場でわーっと拍手が出たと。ですから、敦賀という名前は非常に有名だということをおっしゃっていました。

その後、シカゴに行きまして、またＡＪＣの方たちとお会いして、総領事ともお会いしましたけれども、メラメドさんともお会いできました。

それぞれロサンゼルス、シカゴ、ニューヨークの方たちが新ムゼウムのときにオープニングに行きたいね、みんなで行こうかという、行くよと言ってくれたんですけれども。行くよと言ってくださって、またニューヨークに行きましたら、情報がずっと伝わっていっているんですね。ですから歓迎ムードがだんだん盛り上がってきていて、ニューヨークの総領事館ではレセプションをするということで、80人の方を招いて、敦賀の人がしゃべるよということで募集しましたら満席だった。後から聞きましたら、大体アポをとって出席を確認して７割から８割なんだけれども、今回は満杯で、さらにプラスで呼んできてくれたということで、非常に関心が高くて大成功だったというお話をされましたので、行ってよかったなと思います。非常にそういう意味では、知らなかったという方も。敦賀のことは知っていたけれども、こんなことがあったとは知らなかったということをおっしゃっていましたので、非常によかったと思っていますし、また敦賀に行こうという人も何人もいらっしゃいましたので。

私たちがお会いできたのは、それぞれのところの会長さん、何十万人とかの会長さんたちなので、その方たちからまた発信していただけるというふうに思っています。

後で外務省の方に帰ってきてお聞きしましても、大成功だったんですねと言われましたので、評価も大成功だったと思います。

【記者】　発信されるということですけれども、具体的に何かあるんですか。

【市長】　私ができるのは、いつもしゃべっていることですので。敦賀はもともと交流があるところで、着飾った外国人が来ていて、その中で最近どこかで戦闘があって逃げてきている人がいるなと。ぼろぼろでかわいそうだというので、リンゴをあげたり。うちのおじいちゃんはバナナをもらったんだと言っていましたけれども、バナナをあげたり。そういう歓迎してくれたというのがすごくありがたかったと。

敦賀に滞在した時間は短くて、その後、神戸に１カ月とか半年とかいたんだけれども、イメージでしゃべるのは敦賀なんだと。亡くなったサバイバーの方たちがしゃべるのは敦

賀なんだというふうにおっしゃっていましたね。

印象が強かった。そこですごい歓迎されたと言っていました。

助かったと思ったけれども、メラメドさんなんかが言っていたのは、ほとんど日本人は８割以上、着物だった。着流しみたいな着物だった。非常に歓迎してくれた。そういうイメージが非常に高かったんだろうなと思いました。

【記者】　今でもそのように子どもさん孫さんにもそういうふうに伝わっていっている。ユダヤ人社会ではつながっていっている。

【市長】　伝わっている人もいますし、伝わってないところもあると思います。ただ、敦賀という名前はみんな知っているということでした。

【記者】　下世話な話で申しわけないですが、新ムゼウムの整備に対して具体的な支援というのは何かございましたか。方針表明みたいな。

【市長】　それぞれにちょっとお願いしてきたんですけれども、みんなに伝えますということを言っていただきました。ただ、英語よりもヘブライ語で書いてくれるといいんだけどなと言われたんです。

もう一つ、行って初めてわかったことは、向こうは寄附するのは全然平気ですし、寄附文化はあるんですね。ただ、税金控除きっとあるんですね、寄附に対する。日本に寄附すると税金控除ないんでしょうね。その辺が一つのハードルなのかなと思います。

【記者】　関連して、新ムゼウムの運営なんですけれども、せんだって直営ということで方針を示されていますけれども、直営での運営に向けた検討というのは今後どのようにお進めになるのでしょうか。

【市長】　あと検討委員会のほうでももんでもらいますし、庁内でももんでいきますけれども、直営に向けて粛々とやっていきますし、開館時期、来年の秋ですので、早く日にちを決めてほしいと。アメリカのユダヤ系の人たちも。日程を押さえてほしいと。オープン日を決めてほしいということですので。

【記者】　ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】　ほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、これをもちまして11月の市長定例記者会見を終わります。

どうもありがとうございました。

午後２時１０分　終了